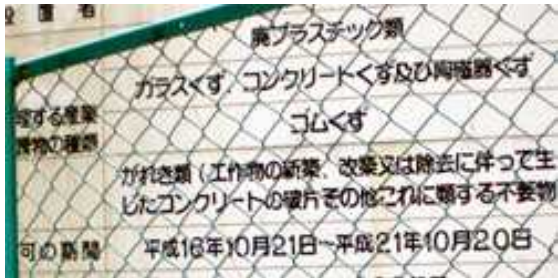


# 市民が安全に暮らせる環境づくりを



平成6年以来、拡張・更新し続け、来年が更新時期。来年は中核市になった市が許可することになる。

環境部長は、県は週1回立ち入り検査をしており、処分場の中は安定化に向かっていっている。周辺への環境の影響はない。硫化水素の発生源は石膏ボードにある」と言います。が、住民のみならずは何が埋つ

## 安全だといつなら ボーリング調査をして証明を

6月議会でも引き続き質問。

昨年7月和邇北浜(つぶ川下流で異臭騒ぎが起こり、原因は上流にある廃棄物最終処分場内で高濃度の硫化水素が発生していたことが明らかになりました。6月議会でも岸本市議と、ふしきみちよ県議は、市や県に「栗東市のRDエンジニアリング問題では、住民は問題解決を先延ばしにしてきた県への不信感を募らせており、RDの二の舞にしてはならない。原因究明と施設の安全性が確認されない限り、来年10月の更新は認めるべきでない」ことを強く求めていきました。

6月6日に行われた一般質問で、岸本のり子市議は冒頭に地球温暖化防止に向け、大津市が行政として担う役割を積極的に果たすことを強く求めるとともに、来年から中核市として県から移譲される産業廃棄物対策について、特に北浜地先の硫化水素発生の問題和邇中の不法投棄について、今から県とともに問題解決にあたることを強く求めました。

しているのかわからないのが不安なのです。岸本市議は、北浜の状況は、栗東市で90年代初めに、そもそも悪臭発生から始まったことと酷似しており、本当にこの民間の施設が安全だといつのなら、県に、今年度中にボーリング調査を実施させ、大津市もボーリング調査をしない限り来年は許可を与えるべきでない」と強く迫りました。

## 今もお続く危険な土砂の流出 法的措置を

和邇中地先に今年6月末まで、産業廃棄物の不法投棄されたその上に土砂が埋め立てられていました。ところが、実際には許可以上の土砂が入れられ範囲も拡大していました。

土砂の搬入が終了した6月以降、雨が降るたびに市道や県道にまで土砂と砂利が流れ出し、和邇インターに出入りする車など大変危険な状態におかれています。



岸本市議は「大津市土砂等による土地の埋め立て等の規制に関する条例」により法的措置を取ることを求めました。

## 「特措法」を使って撤去を

25年経た今も解決の方向が見えない和邇中地先の産業廃棄物の不法投棄。行為者排出者責任であることは言いつまでもないが、規模が拡大され放置してきたのは、これまでの県と志賀町政の責任にあります。

県は行為者に責任を追及するとしてきましたが、その行為者に、国内最大級といわれる産業廃棄物の除去ができるはずがありません。

岸本市議は「特定産業廃棄物の除去に関する特別措置法」(2017年度までの時限立法)を視野にいった除去を県に求めるべきと迫りました。



こんにちは

# 岸本のり子です

発行 日本共産党  
大津湖西地区委員会  
連絡先 日本共産党大津市会議員  
岸本のり子  
大津市和邇春日2丁目  
ケイタイ08031163877

56号 9月号外

日本共産党